Japan Geoscience Union Meeting 2015
(May 24th - 28th at Makuhari, Chiba, Japan)
©2015. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HDS25-04 会場:101A 時間:5 月 28 日 09:45-10:00

# 逆向き小急崖形成因の山体釣鐘形状度からの予察的検討
# Preliminary study on formative factor of uphill facing scarplets based on bell-shape index of high relief mountains

八木 浩司 [1*] ; 林 一成 [2]
YAGI, Hiroshi[1*] ; HAYASHI, Kazunari[2]

[1] 山形大学地域教育文化学部, [2] 奥山ボーリング株式会社
[1]Fac. Art, Science & Education, Yamagata Univ., [2]Okuyama Boring Co.Ltd.

二重山稜逆向き小急崖は，重力性山体変形の予兆的示標として注目されてきた．しかし，横ずれ活断層周辺では，断層線が山地内を横切る際に，逆向き小急崖を多数形成することがある．周辺で明瞭な横ずれ変形が認められないような，最近の活動度が弱いと思われるような断層近隣では，それらが重力性の山体変形なのか，構造応力に伴って形成されたものかの区別がつきにくい．昨年，報告者らは，重力性山体クリープ変形の起こり易い山体形を，山体釣鐘形状度で表すことを提唱した (八木ほか,2014)．本報告では，跡津川断層やそれに並行する活断層が存在する飛?山脈北部について，山体釣鐘形状度を算出し，形状的に重力性山体変形の起こりやすい山体と，形状的には重力性山体変形が起こりにくいにもかかわらず，逆向き小崖が存在する山体を抜き出した．そして両者の間の地形的差や断層との位置関係を検討し，痩せた尾根にも逆向き小急崖が形成される場の条件を検討する．

キーワード: 重力性山体変形, 山体釣鐘形状度, 飛?山脈北部, 横ずれ活断層
Keywords: gravitational deformation, bell-shape index, high relief mountain, strike slip active fault